

令和 元 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糶2264番地1		
自己評価作成日	令和元年12月 6日	評価結果確定日	令和元年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和元年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の雰囲気明るくいきいきとして維持し、利用者も自然とほがらかで活動的になるよう、支援を行っています。利用者から頼られる職員となるよう努力していますが、いまだ道半ばの感があります。「長生きしてよかった」と思っていただけのケアが理念であり、一歩でも、一日でも早く、理念を目標として活躍できるよう頑張ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に掲示した理念や合言葉である「利用者様をいきいきさせましょう。」の具現化を、管理者は日々の生活場面を通じて職員に話している。「自分の足で歩きたい」、「トイレでおしっこしたい」、「ウイスキーが飲みたい」等、入居者其々の目標を共用空間に掲示し、自室に引きこもらず体操や風船バレーなどで歓声を上げながら、筋力や認知力の低下防止に努めている。「食は生きること」と入居者が特売のチラシに目を凝らしたり、一緒に食材を購入したり、行事毎の食事を楽しんでいる。風呂と書いた紙や温泉マークの提示で入浴を楽しんでもらうなど、入居者の心身の状況や認知症の特性を理解した支援を展開している。子どもたちが担いだ神幸祭の賽銭箱が来訪し、盆踊りの準備等の手伝い、文化祭に手作り作品の出品などで地域と交流しながら、中学生や高校生の職場体験や介護実習を受け入れ、転倒予防教室では管理者が講師を務めるなど、社訓の地域福祉の貢献も継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の概要を職員各位が理解・浸透できるように、様々な機会に話し合っている。	玄関に掲示した理念や合言葉である「利用者様をいきいきさせましょう。」の具現化を、管理者は日々の生活場面を通じて職員に話している。その人らしくを重視した支援を実践したいと、新規に入職した職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元区の会合や行事に参加し、施設の活動に理解を得るように広報を行っている	子どもたちが担いだ神幸祭の賽銭箱に入居者がお金を入れたり、盆踊りの準備等の手伝い、文化祭に手作り作品の出品が継続している。転倒予防教室では管理者が講師を務め、中学生や高校生の職場体験や介護実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒予防教室の開催の際には、職員が意見を求められることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の設置目的を明文化し、会議録の施設内掲示と利用者御家族への報告で行っている。	前回の会議は、3家族や民生委員、地元消防団員等の参加があり、市内の徘徊者や行方不明者、近隣の独居者の状況について情報を交換している。次回は、先日の居間での転倒について詳細に報告予定である。	運営推進会議設置規程や目的を鑑み、定期的な開催やホーム内での会議録の公表を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事例ごとの各種相談のほか、報告や助言を得るようにしてる。	市同業者協議会に加入し、情報の共有に努めている。入居後生活保護の申請を支援する入居者も多く、市の担当係やケースワーカーとの連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員への人権教育を通じて、介護業務における禁止事項を周知徹底しており、拘束に繋がる考え方を排除して実践できている。	3ヶ月毎の身体拘束適正化委員会は開催できていないが、管理者は日頃のケアを通じて身体拘束に関する話をしている。現在は無いが、以前外出傾向のあった入居者は、見守りやタイムリーな声かけが行われていた。	運営推進委員に適正化委員を委嘱するなどの工夫で、整備している身体拘束適正化方針に沿った委員会の開催を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで周知し、理解を深め虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などでの解説を行っているが活用の実績はない。相談ができる行政の窓口が記載されたパンフレットを用意している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備しているが、活用者はない。金銭を管理している伴侶の記憶低下が懸念される入居者もあり、ケースワーカーとの連携を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適切に行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体・生活状況等ご家族に説明をする際、意見・要望を伺い、運営に活かすことを実践している。	明日開催される忘年会は3家族が参加予定である。家族等の意見の表出を促したいと、行事や誕生会の様子の写真を壁に掲示し、暮らしぶりや心身の状況を日頃から報告している。先日の転倒骨折については、その折の状況を家族に詳細に報告し、了解を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員各位の意見を集約し、運営に活かしている。	毎月ケア会議を開催し、職員の意見を求めているが、新規入職者が多く運営に関する意見まではない。管理者は、5人の夜勤専従職員と毎月其々面談し、気づきや運営に関する意見を交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件等、代表者と職員との話し合いの機会を持つことにより、職員が向上心をもって働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の意見や社会情勢等の情報を斟酌し、働きやすい環境整備に注力している。	19歳～50代までの男女の職員や夜勤専従の職員が勤務している。昨今入職した看護師の資格を持つ職員は、入居者が自室に引きこもらずいきいきしてもらいたいとレクリエーションで歓声を上げていた。初任者や実践者、リーダー等職員の段階に応じた研修参加を推奨している。法人内の異動はあるが、適性を考え、本人と話し合い了解に基づいて対応している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用選考において各自の条件を先入観なく公平な判断を行っている。	認知症介護職員研修や法人全体の年間研修計画で人権研修を実施している。若い職員の入居者に対する言葉遣いを注意するなど、人権教育に取り組んでいる。	行政主催の人権研修の参加で、さらなる人権教育、啓発活動の促進を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	DVDを使用した研修を実施し、啓発に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の介護事業者の交流会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の申し込み段階からインテークアセスメントを実施し、早い段階からより多くの情報の習得を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安の解消を第一に考え、御家族の立場を理解できるよう努めている。また、介護のプロとしての意識を念頭に置き信頼関係の構築に努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用の申し込みで得られた情報を基に、行政や医療機関とも密接に連携しながら最適な方法を模索している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の能力やメンタル状態に応じて、共に生活していく者として関わり方を考え、安心できる環境を提供できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いによりできる限りの支援を要請し(関係を断った家族にならないよう)関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や旧友との連絡や訪問も途切れることがないように支援している。	神幸祭の賽銭箱を担いだ子供たちが来訪したり地域文化祭に作品を出品するなど、馴染みの行事参加を継続している。家族との受診や外食、買い物支援するなど、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関係を把握し、考慮しながらお互いにとってのベストな支援ができるよう工夫しながら行っている。 繰り返すトラブルなどは、未然に防げるよう配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後のフォローは勿論、自宅復帰が出来た方においても、定期的に訪問するなど関係が途切れる事のないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表面的な意向に左右されず、本質的な意向を見抜き、提供・実現に繋げている。	「自分の足で歩きたい」、「トイレでおしっこしたい」や「ウイスキーが飲みたい」等、聞き取った個々の今年の目標を共用空間に大きく掲示している。フェースシートやアセスメントシートを整備し、把握した意向や思いを介護計画書に明記している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	詳細なアセスメントにおいて、できる範囲で綿密に対応できるよう実施している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化していく心身状態を把握し、不穏になるきっかけなどが無いか探っている。状態に応じて適切なアセスメントを実施している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの日々の利用者の状況や状態を聞き取り、御家族と接した時の意見なども参考にしながら、介護計画に活かしている。	介護計画作成に至る一連の流れに沿って、介護計画の作成や見直しをしている。聞き取った家族の意見を担当者会議で話し合い、体操や風船バレーなどのアクティビティ参加を促し、筋力や認知力の低下防止に努めている。	ホームの目標に掲げた「いきいきとした生活を支援する」ために、予測されるリスクや予防策に関する具体的な記載を期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートにより、実施、評価を行い、介護計画にフィードバックしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを目標に日々検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催事や季節に応じた享乐的イベントを企画・実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の受診について、柔軟に対応している。	重要事項説明書に協力医療機関以外の受診は家族の同行をお願いすることを明記しているが、家族等の状況から職員が同行することが多く、柔軟な対応で適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市の保健師への相談も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の看護師やソーシャルワーカーといった職種の方々との連携を通じて治療の方針や早期退院に向けての話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期の契約段階で概ねの意向把握を行い、健康状態に応じて具体的な提言を行っている。	この1年で3名の方が搬送先の医療機関で亡くなっている。以前、ホームでの看取りを希望された入居者もあったが、現在は看取りに関われない家族が多く、医療機関への搬送希望がほとんどである。管理者は経口摂取ができるギリギリまでは、ホームでの生活を支援したいと話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修などを通じて救命の基礎知識を習得するとともに、個別に外部研修やAEDの訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを手直しし、行政に提出している。	年2回避難訓練を実施し、10月の訓練では地元消防団から、避難経路の段差にスロープを設置することやシーツ搬送、屋外に備蓄している灯油の管理の指導を受けている。飲料水や食材などの備蓄台帳を整備している。	昨今の異常気象から、入居者に関する書面の持ち出しの検討や、近隣の福祉避難所として指定されている介護施設との連携や協力をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「よく気が付く職員さん」を目標に、日常の言葉使いや、表情の指導を常に行っている。	○〇さんと呼称し、目線を合わせ敬語での対応に努めている。「(管理者は)裏も表もなく、悪いことは悪いという良い人で、あの人が指導しているので皆良い」と話す入居者の言葉から、日頃から入居者を人生の先輩として対応していることが伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断が難しい利用者へも、選択して頂きながら尊重している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活習慣を守りつつ、利用者個々人のペースを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や身嗜み、本人の意向を尊重、考慮しながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「ご飯がおいしい」と言われるようにと、職員が熱意をもって工夫するようになった。	安価で美味しい食事と入居者が特売のチラシに目を凝らしたり、一緒に購入した食材にラベルを貼って冷蔵庫に保管している。職員も同じ食事を同じテーブルで食べ、明日の忘年会はかに鍋で、敬老会は焼肉バイキング、誕生会は希望の一品やケーキなど、「食は生きること」と、全員で食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態などを配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアの徹底のほか、訪問歯科の指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助を積極的に行い、成果がでている。	トイレでの排泄を基本に日中だけでなく夜間もトイレに誘導しているが、夜間は睡眠を重視し、リハビリパンツや尿取りパットの確認だけにすることもある。前止めのオムツで退院された場合も、その日からトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を多くして、運動や水分、腹部マッサージ等により自然排便を促す努力をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	生活リズムの維持のため、曜日は職員が決めて入浴しているが、利用者個人のペースでおこなっている。	職員が2人体制で浴槽の出入りを支援したり、入浴を理解してもらうために風呂と書いた紙や温泉マークを提示するなど、入居者の心身の状況や認知症の特性を理解した工夫で、週3回の入浴を支援している。同性介護の希望にも配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりとした時間の過ごしやすさがあり、安眠の確保に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則として、個々人の薬の手帳を活用し、服薬の把握とその効能を理解し、変化を記録して医療機関と連携している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こもりきりにさせないことを原点に、様々な工夫や役割分担、楽しみ事の提供を通じて実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、買い物、催事のお出かけ等外出の機会確保をできるだけ多くとの思いで行っている。	家族と受診や外食にでかける入居者もあるが、職員と食材の買い物や近隣の散歩に出かけたり、初詣、アジサイやコスモスの季節の花見に出かけている。気候の良い日は庭に椅子を出してお茶をするなど、外気に触れる機会を確保している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が金銭を所持している人はいない。ホームの買物に出かけたときは、レジの支払いは利用者をお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等時候の挨拶状、お礼状など折に触れ支援を継続している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や安心感を感じやすくする工夫をし、居心地に配慮している。	玄関は靴の着脱が容易にできる長椅子が設置され、共有空間や壁はクリスマス一色で、大小のクリスマスツリーやクリスマスの貼り絵、グッズが飾られている。椅子やテーブル、ソファや大型テレビが置かれた共有空間は、全入居者が揃って過ごすことが多く、食事だけでなく体操等のアクティビティの場となり、壁の手すりは立ち上がりや屈伸運動の機能訓練の場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が各自の思いで過ごせるようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個性的で落ち着く雰囲気を出せるように工夫している。	居室入口に夜勤者が描いた入居者の似顔絵が掲示された居室もある。全居室とも広くベッドや箆笥、テレビが設置され、壁には誕生日のプラカードや職員からメッセージカードが掲示されている。荷物が整理され、季節の変わり目には衣替えを家族をお願いしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りのもと、ご自分で行うことを原則としている。		